

登録コード:MH167300 開講年度:2026		授業科目区分	保健師コース 必修
科目名	公衆衛生看護支援論 (個別・集団支援の応用)【20M～24M】 Public Health Nursing Methodology		
担当教員	五十嵐 久人 他 石田 史織・富澤 真澄		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/3年 後期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	2単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標	
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	ケースメソッドプログラムで実践に近い思考と方法を学び、理解する。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	ケースメソッドプログラムで実践に近い思考と方法を学び、理解する。	
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。	自己学習やグループでの協働で課題の克服や目標達成に取り組むこと。	
	MH23カリ・保健・看護		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	ケースメソッドプログラムで実践に近い思考と方法を学び、理解する。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	自己学習やグループでの協働で課題の克服や目標達成に取り組むこと。	
授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生、多文化協働、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、ケースメソッドを活用して、地域で生活する個人と家族、集団、コミュニティを理解し、公衆衛生看護活動のための基礎的知識および支援するための理論や方法を習得することを目的とします。 および、男女共同参画に関する内容を含み、担当教員の地域における保健師、看護師、企業内専門職としての実務経験を活かして講義を行います。 本授業は、これまでに学んだ各領域の授業内容を基礎として、地域での支援方法を検討するものです。		
授業計画	第1回 ケースメソッド1・2 第2回 ケースメソッド3・4 第3回 ケースメソッド5・6 第4回 ケースメソッド7・8 第5回 ケースメソッド9・10 第6回 ケースメソッド11・12 第7回 ケースメソッド13・14 第8回 ケースメソッド15 授業アンケート実施 1月から2月に集中講義で実施するため、詳細な日程は決まり次第連絡します。 また、初回の授業で授業計画や進め方などのガイダンスを行います。		
授業の進め方	公衆衛生看護支援論 は、健康科学論、公衆衛生学、医療社会学、保健・医療・福祉政策論、疫学・保健統計などの授業を基盤として、看護学（基礎・成人・老年・母性・小児・精神）についてすでに学んだ内容をリンクさせながら、オンライン学習とケースメソッドを活用し、少人数のグループによる参加型の学習です。 各科目を別の内容と捉えずリンクさせた学際的・統合的なプログラムになっています。 ・少人数グループを編成し、ステップ1・2はオンラインサイト上での知識提供とその内容の知識確認テストにより学習します。 ・ステップ3・4・5は家族アセスメントや支援のための目標設定を行い、ステップ5終了後に中間発表を行います。 ・ステップ6・7は地域での問題・課題解決に向けた保健活動を考え、その上で最終発表を行います。		
テキスト,教材,参考書	テキスト： 標準保健師講座 公衆衛生看護技術 標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動 国民衛生の動向 他、取り組む学習に必要な参考書が用意されており、適宜閲覧しながら学習することができます。		

成績評価の方法	成果物による評価とします。 (1)中間発表(20点):評価基準の(i)(ii)(iii)の内容を評価する (2)最終発表(20点):評価基準(iv)()()の内容を評価する (3)最終資料(40点):評価基準の(i)(ii)(iii)(iv)()()の内容を総合的に評価する (4)参加態度(20点):参加型学習の各ステップで、個人評価シートを用いた自己評価を行う、グループメンバーによるグループ評価シートを評価する。加えて、評価シートを用いて、ステップごとにグループで面談、最後に教員と個人面談を行い、総合的に参加態度を評価する。 これら(1)-(4)から100点満点で、評価点の総計が60点以上を合格とします。
成績評価の基準	(i) 設定された事例に関わる基礎知識を十分理解できる、 (ii) 事例の背景を理解し、適切なアセスメントができる、 (iii) その結果、事例の妥当な問題・課題が指摘できる、 (iv) それらの課題に対して、既存の学説が提示する解決法を把握し、 (v) その上でグループの見解を提示できる、 () 保健師の役割を含めた、具体的な解決方法の計画を立案することができる 以上に加え、さらに秀でているレベルにあれば「卓越している(秀)」。 (i) から () の6項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。 5項目までできていれば「やや上にある(良)」。 4項目までできていれば「水準にある(可)」。 秀:100 - 90点 優:89 - 80点 良:79 - 70点 可:69 - 60点
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回の授業の終わりに、次回の授業までに予習しておくべき内容を指定します。 【事後学習について】 毎回の授業の終わりに、授業内容について確認すべき内容を提示します。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間15時間(2時間×7.5回) + 自己学習時間75時間(10時間×7.5回) = 90時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	学外指導等で留守の場合がありますので、あらかじめe-mailか電話で在室をご確認ください。 質問への対応: 五十嵐久人 higaras@shinshu-u.ac.jp 石田史織 shioriis@shinshu-u.ac.jp 富澤真澄 masumitmw@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー: 随時(要事前連絡) 保健学科中校舎4階 五十嵐久人研究室 随時(要事前連絡) 保健学科中校舎4階 石田史織研究室 随時(要事前連絡) 保健学科中校舎3階 看護助教・助手研究室